
高校生の憂鬱

しんどうみずき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生の憂鬱

【Nコード】

N6643I

【作者名】

しんどうみずき

【あらすじ】

しがない一介の高校生。

そんな私が、今の自分にしか伝えられないこと。高校生活を記していけたらな、とおもっています。

はじめに(前書き)

これは私の主観で描かれた、主観的な文章です。

それが嫌な方は、どうぞお引き取りください。……不快な思いはさせないよう、気をつけはしますが、それでも至らない部分があるかもしれません。

はじめに

私は今、高校生である。

とはいっても、特別なことなど何も無い。世界を股に掛けるスーパー学生でもなければ、もちろんジャーナリストに所属しているわけでも、高校生作家でもない。

ただのしが無い高校生だ。

残念ながら彼女がいたことはない。

欲しいとも思わない、なんて強がりと言えるほど私はデキた人間ではないから、学校にわんさかいるカップルをうらやましく眺めることくらいしかできないのだ。

……せめて電車の中でいちやいちやするのはやめましようよ、ねえ。つい目がいくじやないですか。

今日だって、電車の席の向かい側になかなかかわいい女の子が座ったんですよ。お、ラッキー！ とか思っていたら、そのあとに彼氏が遅れてやってきて、楽しそうにしゃべりだすんです。

ああもう拷問みたいなものですよ。いつの間にか文体が変わっているとかそんなことは気にしないで、これはイヤミなんですかね？ それから中年カップルもイラつきます。

どう見ても40過ぎのオジサン（やつれた顔）とオバサン（化粧厚め）があからさまにベタベタしてるんです。いい迷惑です。こつちはそんなもの見たくないんですよ。そういうのは家の中だけでお願います。

こんな風に書くと私は女に餓えたストレス人間みたいですが、実はそんなこともありません。どちらかというと樂觀的な人間です。何事にもものんびりと対応できると思っています。気のせいかもしれないけど。

自分のことは好きだったり、嫌いだったり。

どうして嵐の櫻井翔クンのように生まれてこなかったのだろうと時々悩むこともあります。ま、それは親を恨むことしかできませんので、仕方のないことです。

要は内面なのです、と。言い訳してみます。

小説とか書いていると、「俺って天才じゃね？」とか誤解して、これは芥川賞目指すしかないっしょ！ ということになります。はっきりいって馬鹿です。

さて、こんな私が日記を書くとうなるのでしょうか。

おそらく三日坊主……にしてはなりません。がんばります。

でも、ひとつだけ約束したいと思います。

これは誰も見られる作品になるのです。私は一介の作者ながら、読者に対して責任を負っています。短い人生の貴重な時間を割いていただいているのだから、がっかりさせるようなことがあってはいけません。

それは私のプライドでもありません。

日記だから、などという安易な言い訳はしたくありません。

書くからには少しでも面白い作品にいたします。読みにくいものにはしません。

さて、こんな私に興味を持ってくださった方がいらっしやいましたら、どうぞお読みください。

私のクラス

1クラスに40人の生徒が詰め込まれた教室が、私は好きだ。

さて、私は　というよりほとんどの高校生は、学校生活の大半を教室で過ごすことだろう。

もちろん部活だってあるし、外で活動しようという活発な人もいるかもしれない。

それでも授業は受けなければならない。だから退屈な時間（授業中はもっぱら隣人とおしゃべりに興ずる）によって、1日のほとんどを拘束されているのだ。

まあ、もちろん大人は勉強することの価値を説くことだろう。

けれど私は幼稚園の無邪気さを小学生になってから気づき、小学校の気楽さを中学になって感じ、中学校のゆとりを高校生になってようやく学んだのだ。

自分の置かれている状況を客観的に判断するためには、どこか遠くから自分自身を眺める必要がある。まるでナスカの地上絵のように。

クラスによって個性というのは変わるものなのかもしれない。

10代という多感な時期だから、周囲の人間に影響されやすい。どんなクラスメイトに恵まれるのか、それはとても重要な問題なのだ。

……実は、私のクラスは頭が悪い。

正確に言うと、我がクラスの平均点がほかのクラスよりも劣っているのだ。

もちろん皆がみんな成績の悪い生徒であるわけではない。

学年で屈指の秀才もいる。何を隠そうこの私がいる（と言ってみたい）。

原因はおもに男子のだが、中間層が少ない。格差が激しいとでも形容しようか。

頭のいい人、悪い人の差が大きいのだ。

100点満点のテストで、他のクラスと10点ほど差がついたこともある。

全員がわれわれより10点高い……うそだろ、とつぶやきたくなる。特にひどいのが数学だ。どうやら先生の話によると理数系が壊滅的らしい。困ったもんだ。

面白いことに、数学だけは全クラス担当の先生が違うのだ。

そのためクラスの成績が良い。先生の教え方が良い。というような見方もできる。結局は生徒次第なのだけれど、世間的にはそういうことになるだろう。

比較のおっとりとした先生。彼もいろいろと苦悩しているようだ。

ごめんなさい。悪気はないんです。

「えー、今までに平均点の出ているクラスは3つだけですが、このクラスは暫定3位です」

「……………」

「よ、よし。このまま3位になるんじゃないかね？」

「そつだそつだ。あはははは」

あの時の悲しそうな顔は忘れません。その後、

「そついえば順位ってどうなったんですか？」ときかれ、

「怖くて見ておりません」と答えていました。…………ごめんなさい、いやほんと。

でも、私は好きですよ。このクラス。

私のクラス（後書き）

ちなみに、運動神経はかなりいい人たちがそろっています。しかしそれと勉強ができるということが反比例の関係なのかというと、どうやらそういうわけでもないみたいです。かつてスポーツ系の賞を総なめにして、なおかつ勉強でもトップを独走していたクラスにいました。それも2年連続で。……世の中、よくわかんないです。

ガールズ・ハート

女心はよくわからない。それは大部分の男性にとって永遠の試練であり、謎であることだろう。

そんな宇宙のように深遠な感情の一端を垣間見ることができるのが、ガールズトークである。

「ねえ、男の子って女の子に何をされたら嬉しい？」

別にフラグとかではありません。ほんの興味程度で数人の女の子が尋ねてきました。

周りにいたのは私とほかの男子数名。

草食男子で有名な一人は、顔を赤面させて話を濁すばかりでこたえようとしません。いったい何を考えたのでしょうか。

「ねえねえ、しんどうは？」

「そっちなあ……」

と私が思案していますと、他の男子が

「逆に、女子はどんなことされたいの？」

と訊きました。ふむ、うまい切り返しだな。

えー？ とかなんとか言いながら、一人が声を上げます。

「お菓子が欲しい！」

この子 Eちゃんとしましょう。はいつも糖分が足りないとか叫んでいるような人ですから、なんかお菓子を食えることを人生の目的の半分くらいにしているのではないかと思っています。ま、そうはいつでも太っているというわけではなく。

スタイルもよくて、かわいい子なんですけどね。ちなみに隣の席です。授業中はもっぱら彼女としゃべっています。

「手作り？」

「そのほうがいいよね！」

一人が答えます。しかし、他の女子は

「えー！？ ドン引きでしょ！」

と笑っていました。なるほど、これは参考になりますな。

「俺はバレンタインデーのチョコを希望します」

お調子者が言いました。実は彼、ものすごく水泳が速いんです。全国レベルです。

「やだー」

「だったら年賀状ちょうだい」

私に参加して、それからなんやかやとなりまして。どうやら年賀状はもらえることになりました。

うれしい限りです。

「おれは……そうだな。会った時とかに手を振ってくれと嬉しいかな」

という結論に私は達しました。その瞬間、二人ほどが手を振ってくれます。

ノリのいい人たちです。面白いです。

それからもうひとつだけ。

「女の子はね、99の優しさを見せられても1の冷たさを見ると冷めちゃうんだよ。けどね、99が冷たくても1の優しさがあったら惹かれちゃうものなの」

とのこと。Eちゃん、わかりました。

私はハードボイルドな探偵を目指します。仮面ライダーになります。

以上、最近本気で仮面ライダーになりたいと思っている私でした。

ガールズ・ハート（後書き）

とはいっても、女の子よくわかんないですけどね。

デジタルモンスター

今日、授業で。

あなたが小学校の時に見ていたテレビは何ですか、とプリントに書いてあった。

ふむ、なんだろうか。

どうしてだか、パツと浮かぶものがない。

さわやか三組という意見が出た。

さんさんさん、さわやかさんくみ〜 と声を揃えて歌えるのはすごいことだろう。みんな知ってる（だろう）超有名番組だ。懐かしかったらありゃしない。

内容は忘れたけど。

だったらバケルノ小学校は？ と私が聞いても、草食系男子クンは首をひねるばかり。あれはノビロー君が結構おもしろかったんだけどな。残念ながら知らないようだ。

昔懐かしいもの。

代表例はポケモンとかだろうか。確かサファイアまで遊んでいた気がする。いまでも学校に最新作を持ち込んでくる奴がたくさんいるから、情報には事欠かないけど。

どうにもレアコイルやエレブーが進化するらしい。

……任天堂も必死だな。

伝説のポケモンは一体何匹になったのだろう。……まあ、映画は面白いからいいんだけど。

「デジモンとかは？」

草食な彼がそう言った。おおそうだ！

その手があったじゃないか！

アグモンとかグレイモンとかは覚えている。学習機の保護シートが

デジモンのやつだったから、かなり詳しく記憶しているのだ。

ガンダムとかのようにシリーズ構成になっていたはず。主人公たちは年をとりながらも出演を続けていたような覚えがある。

まるでナルニア国物語のように。

王子様達が帰ってきた時が一番おもしろかったなあ。いつだって最初のキャラクターが最も格好いいのだ。

「デジモンかあ……いいかもしれない」

「だろ？」

「どんな歌だっけ？」

「あー………忘れた」

気になった私は、家に帰って調べてみることに。

YOUTUBEにありました。

デイケイドを見て、仮面ライダークウガを一から見直してみたくなった時と同じようなデジャヴが体を襲います。

なっつかしいー！

十代の時に歌った歌を、人はずっと口ずさむ。

そんなコマーションシャルがありますが、僕等は子供の頃に学んだ歌を永遠に忘れない。

それは音楽だけではなく、視覚や嗅覚、味覚においても同じなのではないだろうか。本能的な刷り込みかもしれない。

たまには懐古の想いに浸るのもいいだろう。いまは便利なことにつだって過去の作品を楽しむことができる。私も、早速デジモンを見ってみることにした。

あんな冒険を夢に見たものだ。

デジタルモンスター（後書き）

今見てもおもしろいです、デジモン。

お菓子と高校生

お菓子。何と甘美な響きであろうか。

その歴史は、はるか古代にまでさかのぼる。紀元前のその昔。人間と菓子の付き合いは長い歴史を誇るのである。

ひよっとしたら本能に刷り込まれているかもしれない。DNAに刻まれるお菓子の記憶。ちよっと因縁じみたものを感じる。なんだか楽しくなってきた！

遠足に持って行っていいのは300円までと相場が決まっている。でも高校には無制限に持ち込めるのだ。カバンに常備は当たり前。ハロウィーンにはお菓子パーティーをやった。誰も仮装なんてしていなかったけど、教室には甘い匂いが漂っていて、みんなで交換して楽しんだ。

昔は大人になったら甘いものなんて！ という人が多かったけど、現代では大きな声で「俺は甘党だ！」と宣言できるようになった。酒なんて飲むくらいなら、私はモンブランを買う。どちらも適切な量を摂取すれば体に悪くはないが、過ぎたことをすれば健康を害する。何事もほどほどに、が一番いい。

美味しいものを、美味しいと言えるようになった。それは素晴らしいことだし、うれしい限りだ。

幸せなことがあると、人は自然と笑顔になれる。笑顔は周りを幸せにする。なにも世の中にあふれているのは負の連鎖ばかりではない。そういうハッピーな循環があってもいいではないか！

「チョコあるけど、食べる？」

私がそう尋ねると、隣人たちの顔はたちまち明るくなった。こちらまで微笑がもれる。

「食べる！...」

実は先日、とある授業で先生からご褒美としていただいたものなのだが、みんなで山分けしてやるうと持ってきたのだ。もちろん束の間のヒーローになれるという打算もある。けど他人の笑顔は純粹にいいもんだ。

「一人一つずつね」というそばから、「俺二つ！」「私も！」とか叫んで持ち去っていきます。何という奴ら！でも「そのうちお返しをあげるから」とか言われてしまつと許すしかありません。憎めないやつら。

後ろの席の草食男子クンはいつも飴を持ってきて、よくプレゼントしてくれます。

けれど今日はハツカ味だったらしく、大外れ。不味いまずいと評判が立ちます。まあ、そういうこともありますよね。

「あーあ、空からお菓子でも降ってこないかなあ」
私は授業中につぶやきました。

「かわいい願いだね」
でもそんな幸せが空から降ってきたら、きっとみんな幸福になれる。かわいい願いでほしいさ、はかない妄想でもいいさ。

子供の夢ほど、現実味がなくて。
それでいてハピネスなのだから。
幸せはどこに転がっているのだろうか？

さあ、あなたもちょこつと甘いチョコレートを口にしてみては？
くれぐれも、体重計には気をつけて。

お菓子と高校生（後書き）

いいものですよ、甘いものは。

年齢と性格

先日紹介した、哀れなる数学教師のことを覚えているだろうか。

文化祭が明け、久しぶりに対面した彼の毛髪は明らかに勢いを失っていた。……つまり、髪が薄くなっていたのである。

ごめんなさい、苦勞をかけます。

さて本日、担任の先生が誕生日を迎えた。簡素なものだが、「HAPPY BIRTHDAY」と黒板に書いて、お誕生日の歌（正式名称は知らない。はっぴばーすでえー、つーゆー。のやつです）を歌った。

クールを装って、けっこう照れ屋な人だけど、今回は割と素直に喜んでくれた。

「そういえば、先生は何歳なんですか？」

誰かが訊いた。私たちと干支がちょうどふたまわり違うらしい。

「教員室で同年代の先生たちを見ているとね、なんとなくカラーがあるんです。同じような雰囲気というんでしょうか。少し上だったり、下だったりすると性格が変わってくる」

あなたは教員室で一体何をしているんでしょうか？ なんてね。

「君たちの学年も同じでね、何年生かによって大分『色』というものが違う。それが面白いことに、だいたい3年周期で元に戻るんです」

それには心当たりがある。

3つ上の世代とわれわれが似ているというのだ。周りからも、ああそうかという声が漏れた。

どうやらみんな思い当たる節があるらしい。

ところで、さっき説明した数学の先生とわれわれの担任は同じ年な

のだ！

担任のほうはまだまだ若々しくて、小さなお子さんもいる。この差はどこからやってくるのだろうか。きつと数学という科目は苦勞が多いのだと、私は推測している。……勉強にも気をつけなければ。人によって個性が違うのは当然のことだけど、おおまかな性格の偏りがあるというのは面白い。

トレンドもそういう差異から生まれてくるのだろうか、企業でも研究していることだろう。一度見てみたい。

彼の担当は地理なのだが、その中で台風の話題になった。

サイクロン、タイフーン、ハリケーン。

今の私がピンと来るのは最初のひとつだけなのだが、何の事だかわかるだろうか？

仮面ライダーのベルト。

くるくるまわって、変身！ ということらしい。昭和のライダーたち。

「一年ごとに新しい番組に変わるというのも、メーカーのうまいところだね。毎年新しいおもちゃが欲しくなるように工夫する。うちではそんな物の存在を教えないようにしていますけど」

いやいや、ぜひともお子さんには見せるべきですよ。

人生の糧になりますから。

子供の性格も、年によって変化することだろう。

そこをうまく見極め、番組を作っていく。それも大切だ。

しかし私はそれ以上に、大きな力の存在を感じるのだ。運命に動かされているというか。

同じ意志をもつものが集まれば、巨大なちからとなる。それはどこかの意思によるものではないだろうか。

それからもうひとつ。

自分という存在が何者なのか。その真実をつかむための手がかりと

なる。

周りを見ることによって、その中に見え隠れする自分を捕まえることが出来る。そのためのヒントを、神様がくれたんじゃないだろうか。私には、そう思えてならないのだ。

年齢と性格（後書き）

神様がそついう風に存在していると考えたら、少しだけ幸せになりますね。

手紙と高校生

私たちが手紙を送るのは、年始くらいのものでらう。年賀状だ。それすらもメールで済ませてしまおうという人がいる。私の携帯電話にも年が明けると数件ほどメールが入っていることがあった。住所がわからないというならばともかく、すぐ近所に住む友達からだった。

たしかに一人一人にあててコメントを書くのは面倒くさい。けれど楽しくはないだろうか？ メールが返ってくると同じように、誰かから新年のあいさつが届いたら嬉しく思わないだろうか。

テガミバチというアニメがある。山手線の広告で見かけて、面白そうだなと思ったのがきっかけで視聴をはじめた。なかなか素晴らしい作品だ。すごく絵がきれいで、ストーリーも私の好みに合っている。

それはともかく、人と人とのつながりは大切だ。

私たちが誰かに手紙を送るとき、そこには少なからず思いが詰まっている。

ラブレターなんてその象徴だらう。私は送ったことはないが。

誰かに何かを伝えたい。その気持ちはみんな持っていることだらう。誰かとながつていたい。その気持ちも持っているはずだ。

メールというのはその両方を満たしてくれる。切手を張る必要もなければ、ポストに手紙を入れに行く必要もない。簡易なものだが、その分味気がない。

絵文字、というものがある。ちょっとでも正確に思いを伝えようと作られたものだらう。

ハートマーク一つでメールが華やぐし、音符で楽しい気持ちが伝わ

る。

携帯のメールは短くまとめることが大切だけど、その中にユーモアや感情を込めるのは難しい。

けれど私は挑戦する。17文字の俳句でさえ壮大な世界を表現できる。だったら私ができないはずはないから。

「うん」「わかった」

そのくらいの返事はコンピュータだってできる。けれど私たちは人間だ。

少しでも楽しくなるように文面を工夫してみるというのも、大事なことはないだろうか。

メールによって失ってしまったものはある。

それを取り戻せるよう、苦勞すること必ずあるだろう。

増えすぎた二酸化炭素を減らそうと四苦八苦しているように、科学の発展によって損なったなにかを、僕らは探し求めている。

(笑)という文字。

私は以前、これが嫌いだった。安易に笑いを取りにいっているような気がして、下品な感じがしていたのだ。

けれど、ちがった。

要は使いようなのだ。どんなに批判されている言葉だって、相手を不快にさせることがないように気をつけながら使えば、適度なスパイスになる。その判断を見極めることが、若者らしくも大人びるための要因なのではないだろうか。

どこかで夜遅くまで遊んだり、金髪に染めてみたりすることではなく。私は私なりの見栄を張ってみたいと思っている。

手紙と高校生（後書き）

なんかオチのない話ですが。
学校がないとネタがないもんで……。

後悔

もし、私が一生分の後悔を先に経験できるのだとしたら、私は何だ
つてするだろう。もっとも、それなら後悔とは呼ばないのだろうけ
ど。

後悔、の一番の無力感は、後からどうしようもないことだ。悔やむ
ことしかできないから、じたばたしたって仕方無い。それはわかっ
ているのだけど、何度も「もしも」のことを考えてしまう。
たとえばタイムマシンができたとして。

それが人類の後悔という感情を消すことにはなるだろうか。どうし
てだろう。私はタイムマシンを作ってしまったことを後悔しそうな
気がするのだ。そしてそのマシンで過去に戻り、作っている最中を
邪魔する。

で、いつかまた後悔する。貴重な存在を消してしまったことに。

私にはいろんな後悔がある。

もちろんその大半は忘れてしまっているのだけど。

今日はここで筆をおきたい。

辛い日もある。

そついうことだと思ってほしい。

後悔（後書き）

そのうち、この短い文章を投稿してしまったことも後悔するのでは
よじ。

陶芸

焼き物というのは、素人が見ても区別がつかないものだ。

「開運なんでも鑑定団」などでは目利きを装った凡人がたくさん出演していて、やはりプロでないとわからないものだなあと感じる。偽物でも、本物でも、私はどちらでも構わないのだけど。

まあ、自分の作ったものくらいは見分けたいものだ。

最近、美術の授業で陶芸をやっている。

焼き物教室なんかには数回参加したことがあるけど、ほとんど役に立たない。幼稚園で粘土を作っていたほうがよほど有益だった。

最初に設計図を考える。ここで個性が表れる。

みんなかなり個の強い人ばかりだから、面白い形が次々に登場する。本人には内緒でいくつか紹介しよう。

「にんにく」「地球儀」「バスケット」「りんご」「よくわかんないもの」

これはあくまで一部にすぎない。

他にも楽しい作品がたくさんあるのだが、すべてを語ってはキリがない。

一応花瓶になるようにという制約はあるのだが、どうにも穴が空いていけばいいだろうという考えかただ。一輪でも挿せれば問題ない……いや、だからってエッフェル塔を作ろうとかは、凄すぎですよ。ねえ？ Eちゃん？

そして整形。

これに一番時間をかけた。

どうにも設計図通りにはいかななくて（私は砂時計のようなものを作ろうと思っていた）、表面をきれいにするのもそこそこにタイムアップ。陶芸家への道はまだまだ遠いようだ。

とにかく自立するくらいのものは作れた。
最後に不安になって、やたらめつたらに模様を入れてしまったのは
失敗だった。

ここで一回素焼きをする。

割れてしまうのではないかと心配だったが、なんとか無事で私の前
に姿を現してくれた。

子供のような愛着もある。

どう鼻屑目に見ても上手ではないのが悩みの種だが。

そして今日、色付けをした。

焼くとガラスのようになるという。

ただこれが難しい。焼いた後の色がどのようになるのか、さっぱり
予想がつかないのだ。ある程度の目安はあるものの、上塗りをす
るか、濃度はどのくらいか、などの条件によってだいぶ色合いが変
わってくる。

これは上手くいったと自画自賛している。

先生の指導もあって、ずいぶんと格好良く仕上げられた。

頑張ったぞ、私。

絵が壊滅的にへたくそな私は、もう楽しむくらいしか能がない。精
一杯やった！

ところで、陶芸は子供のようだと私は思った。

釉薬（色塗りの薬）をどう塗るかで大きく仕上がりが変わるし、焼
いたあとではずいぶん印象が違う。まるでこどもが大人になるよう
に。育つのだ。

だから成績なんて、付けてほしくない……ねえ、先生？ 自分の子
供に評価なんてつけたくないですよ？

陶芸（後書き）

でも楽しいですよ、陶芸。
言い訳じみてしまっけど、みんなオリジナリティーが
ありすぎです。

教師と生徒

私は陸上競技以外のスポーツが嫌いではない。

マラソンや駅伝だけは何が楽しいか理解できないのだが、サッカーをはじめとする球技全般やその他の競技は楽しいと思う。

スポーツという堅苦しい雰囲気で困わずに、体を動かして遊ぶと現することも大事だ。どうにもスポーツという言葉には、頂点を目指さなければいけないような響きがあるような気がする。やはり原点は、楽しむこと。それがなければつまらない。

今は体育で柔道とソフトボールをやっている。

柔道は準備運動として前転や後転をさせられるので、あんまり好きではないのだけど（私は三半規管が弱いので、すぐに酔ってしまうのだ）、試合は面白いと思う。

まだ受け身をとれないから、膝立ちのまま寝技を掛け合うのだ。ちなみに私の得意技は袈裟固め。レポートリーは3つくらい。

今日、朝方は雨が降っていた。けれど私たちは校庭に出て、水溜りの残るバッドコンディションの中でソフトボールの試験をおこなった。ピッチングの際に踏み込む足はぬかるみに沈んでいくし、バウンドしたボールは水に濡れてよく滑る。

なぜこのような半ば無謀ともいえる行動に出たのかというと、もちろん先生が指示したからだ。

いやそんなこと聞いていない、と言わずにちょっと怒りを鎮めてほしい。

私たちだつてびっくりしていたのだ。体育館でバスケットをやるものだとばかり思っていたから。

彼のいうところには、「来週は試合をやるから」とのこと。

私は大賛成なのだが、周りの反応は芳しくない。

小学校の頃は試合だというと大騒ぎして喜んだものだが、最近はそのもいかないのだ。やる気を出すまでに時間がかかるというか、乗り気でないというか。積極的に楽しもうという雰囲気が減ってきている。

だるい、が一番似合うだろうか。

先生と生徒の意識の違い。

それはあって当然だ。むしろなくては困る。

私たちと同じ視点で立つことも大事だけど、もっと大人な目線で指導してもらわなければ。

技術も上がってより本格的（もどき）になってきたのだから、もちろんより面白いものになるはずだ。プレイヤーの意識までは成長しないようだけど。

部活には熱心なくせに、授業だけやる気を出さないとどういふことだろうか。

高校生にもなって無邪気に試合に打ち込むのは照れ臭いかもしれない。

寝不足でだるいのもしれない。気になるあの子のことですごく頭がいっぱいなのもしれない。

けどさ。

つまんないじゃん、みんながやろうと思わないと。

文句ばかりを言うのは好きじゃない。

せいぜい来週を楽しみにしよう。雨が降らないように、テルテル坊主をつりさげた。

教師と生徒（後書き）

どうしてなんでしょうね？
私が子供なのでしょうか？

みんなそれぞれ

みんな違って、みんないい。

そんな詩を読んだことがある。

私はそれに同意する。

外面と内面は関係していることが多い。猿っぽい顔をしているなと思つたら、たいていは頭がよろしくないし、どうみてもヤンキーだったら素行がよろしくない。

あくまでそういうことが多いという目安なので、違うという意見も勿論あるだろう。間違つてはいない。私の主観のみで構成された経験則なのだから。

ギャップ萌え、という言葉がある。

外面と内面が違うからこそその魅力、とでも説明しようか。どう見ても優等生で何でもできるのに、実はすごい音痴だったり、ヤクザさんが子犬を飼っていたり。そういうことがあるだろう。

……いや、端的な例だから私のセンスがないのが露呈してしまうけど。

すべてが外見のみで判断されてしまったらつまらない。

能天気そうな奴が緊張していたりすると、からかえない。試合の前だったり発表会の前だったり。

落ち着きがなかったり顔が青ざめていたり。

意外だなあ、と思うことが多々ある。

お隣さんのEちゃん、今日は歌の発表があるとのこと。

アカペラをみんなの前で披露するのです。しかしまだ歌詞を覚えていないとのこと。頑張つて掌にカンニング歌詞を書き込んでいました。

緊張なんて無関係そんな明るい子なのですけど、その日はかりはずっと貧乏ゆすりをしていてしきりに人の字を飲み込んでいます。

「どうしよう……緊張する……」

「Eちゃんでも緊張することがあるんだね」と私が言うと、

「ギャップ萌えした？」

「いや別に」

ちよこつと悲しそうな顔をして見せます。

気軽に「愛してる」とか言える人なので、彼女の言動はあてになりません。

愛してるゲームというものをやってみました。

真顔で向かい合って「愛してる」と言い合うのです。男同士でやっても気持ち悪いだけなので、Eちゃんとやってみますけど、かなり難しいです。

どうにも心を割りきれなくて、照れくさくなってしまいます。

で、吹き出す！

困ったもんだ。

「愛してるの響きだけで強くなれる気がしたよ」という歌があります。それが思い出しました。

確かに強くなれそうです（笑）

本当にいいもんですよ。

悪口だらけのいやらしい世界で、温かい言葉は効果を発揮します。

誰かをさげすんでいるよりも、だれかを思いましよう。

たとえそれが張りぼての言葉だったとしても、きつと何か心の奥で変わるはずですよ。

「おはよう」

たとえばそんな、他愛のない挨拶だけでも。

みんなそれぞれ（後書き）

ま、ノリのいい女の子を探してやってみてくださいな。
ただし、男の子は純情ですので気軽に声をかけないように。

下ネタって……（前書き）

少々オトナびた言葉があります。
お気をつけください。

下ネタって……

公共の場で下ネタを言って騒いでいる男の子たちを見るとイラッとします。

お前らにはモラルとか常識ってもんがないのかー！ って。小さな子もいることですし、「セックスってなに？」と無邪気な顔で尋ねられたらおかあさんとしても困ってしまうでしょう。けど、簡単に笑いをとれることにはとれるのです。

高校生にもなると、保険の授業でそういった類のことを習います。なんか妙に生々しくて、もっとシユールなものになるかと思っていたのですが、意外とみんな女子も男子も慣れた様子で（変に照れたりせず）、淡々とノートを取っている風に見えます。つまり、いつもと同じですね。

昔は、そういう授業のときは女子の近くだと気まずいなあとか思っていたのですが、そういうわけでもないようです。

みんなオトナですね。精子と卵子とが合体して、今の私がいると考えれば命の大切さを知ることもできましょう。

一つとなりの精子が受精していれば、超絶なイケメンになっていたかも知れなという可能性も捨て切れませんが。

私が常々思っていることですが、相手を不快にさせなければ、少々下品なことでも会話を楽しくする適度なスパイスになるのです。たとえば絵文字や（笑）といった風に。

要は使いよう、と言ってしまっってはつまらないですが、つまりはそういうことです。

教室でのヒソヒソばなしくらいなら、女の子相手でも構わないでし

よう。まあやりすぎるとセクハラなのでお気をつけて。

科学の授業中でした。

「最近の高校生が好きなアイドルって誰なんでしょうねえ。私の頃は山口百恵とか、絶対的な人気のあるアイドルがいたものですが」と先生が言うのです。

クラスではAKB48とやらが人気らしいのですが、私にはモー娘との違いがわかりません。

人数が多ければいいというもんじゃないでしょうに。

で、例のEちゃんが。

「ピンクの女優さん?」

とか言ってくるので、「女の子がそんなこと言っちゃいけませんよ」と注意しました。

ぶっっちゃけ、女の子だからどうこつの問題ではないのですけど。

まあおもしろかったからいいか。

下ネタって……（後書き）

固定観念はよくない。

けど自由すぎるのも良くない。

ほどほど、が一番です。

けれど頂点を目指したくなるのが思春期なのです。

勉強の意味

私は勉強が嫌いだ。

まあ大体の高校生は（というよりも人間は）、勉強なんて嫌いはず。

勉強しようと思うとほかのことが楽しそうに映る。だから嫌い。

化学式とか、方程式とか。

論理的な思考を身につけるためなんて言う大義を掲げているけれど、ぶっちゃけそんなものが備わった感覚はない。

数学なんてやらなくても生きていけるとはよく聞きたいわけ。実際にそうなのだろう。

分数の掛け算もわからないような社会人はいくらでもいる。

勉強するのは大学へ行つて、就職して（それすらも難しいわけけど）、できればかわいいお嫁さんをもらって……という人生を歩むため。

なんかつまらない。

作家になりたいなんて思わない。

あくまで小説は趣味だし、仕事にできるような根気も才能もない。

唯一必要だと思っているのは英語。

こればかりはどこへいっても役に立つ。

外国人としゃべるのは楽しいし、何より充実感がある、

そういうことなんだろうな、本質は。

期末テストは学生の敵。

でも、勉強はしなくちゃいけない。

妥協することを覚えるための、テストじゃないはずなのに。

ゴルフ

今日は、本当はたーくさん勉強してテストに備えるはずだったんだけど……そんな時に限って多趣味になる。アイディアだけだった小説を書いてみたくなったり、本棚に眠っていた文庫本を読破してみたり。どうやら勉強以外の面で充実した一日になったようだ。

そのうちの一つがゴルフ観戦。

やはり注目は石川遼くんである。まだ18なのに、日本の頂点を取ろうとしているのだからすごいという言葉では表しきれないくらいの偉業だ。私と大して年の違わない人とは思えない。

最近、ブレイクの若年化が進んでいるような気がする。

年齢の若い人ばかりがピクアップされて取りざたされるから、よく目につくだけなのかもしれないけど、遼くんをはじめとした若返りは確かに起こっているはずだ。

例をあげるとするならば、斎藤祐樹やマーくん、巨人の坂本。野球のほかにも水泳の入江選手や、この間はバイオリンの世界的な賞をとった高校生もいたはずだ。

芥川賞でも受賞するようなことがあったら、私も有名になれるのだろうが。彼等は女神に微笑まれたごく一部の存在にすぎないということも忘れてはならないだろう。

嫉妬するわけではないけど、才能はうらやましいと思う。それに対する責任や重圧がのしかかるのももちろん承知している。この日記を書いている時でさえ、文才のなさはつくづく感じる。

努力すればなんとかなるとは言うけれど、努力することも才能のうちなのだ。

誰にでもできそうだけど、誰もができるのならこんな世界は殺伐としてはいない。

持てる者と持てない者は居るのが当然なのだ。

自然界で弱者は排除されてきた。

けれど敗者は必ずしも存在する価値のなかったものなのだろうか？
彼らが生を受け、育ち、食べ、子孫を残すことを望んでいたとしてもかなわなかった。だからといって本当に仕方のなかったことで、
運命だったと諦めていいことなのだろうか？

大器晩成という言葉がある。

能力はいつ開花して世に認められるようになるのかわからないものだ。

焦る必要はないと思う。

私はゆっくりと自分を磨いていくタイプだと自覚しているから。

例の水泳のすごい友達は「水泳なんて嫌いだ」と漏らしていました。
好きでやっていられるうちはいいのしょうけど、それがつまらなくなってくるにつらいです。

いまの部活とおんなじ。

もの好きでやっているなら楽しいのですけど、勝利だとかにこだわると、とたんに色褪せます。

そりゃ勝てばうれしいし、負ければ悔しいのですけど。

でもね、最初の目的を見失っちゃいけないですよ。

人生、楽しくないと。

ゴルフ(後書き)

さてと、今夜は仁だ。

11月の最後

今日で11月も終わりですね。

言い方を変えると、今年もあと31日を残すのみ。

さて私は成長したものでしょうか……（身長は数ミリ伸びた）。

期末テストも近づいてきて、柔道の授業もラストを迎えました。ようやく悪夢が終わると思うと、うれしい限りです。

さて巷は早くもクリスマスモードで一色です。

クリスマスソングって原曲が英語のことが多いですから、英語の歌詞で歌えるとかっこいいですよ。トナカイの名前はルドルフと相場が決まっているものです。

そういやサンタクロースというのは「セイント聖クロース」というらしいですね。

よく考えてみればその通りなのですが、今まで知りませんでした。

それに彼の名前はニコラスさんだとのこと。

やっぱり人間なんですね、サンタも。

あれだけ人に夢を与えられるのは、ノーベル賞ものの業績だと思いません。

平和も希望も、だれかに与えるのはすごく難しい。

私たちは知らないうちに人を傷つけるし、故意に傷つけることもたくさんある。

他人の悪口を言うのはやめようと心掛けている私でさえ、つい口をつく悪態がいくらかでもある。美しい歌詞のように理想ばかりを語っていられるわけでもない。

誰かを守りたいと思ったことはある、けれど私はあまりにも無力で、そんな自分に腹も立って、それでも何もできなかった。

努力はしているつもり。全然足りてない。

基本的に、「厭味でなければ人は褒めると喜びます。

その髪型かわいいね、とか。字がきれいだね、とか。ナイスプレー、とか。

使いすぎるとただのおべっか野郎になってしまいますが、これもほどほどに使えば素敵な人間関係をつくれます。

はにかんだ顔で「ありがとう」という姿を見るのも、悪い気はしないでしょう？

ジングルベル。もうすぐ鈴の鳴る季節。

サンタのようにはいかないけれど、せめてささやかな思いやりをプレゼントできたら、きつと素晴らしい贈り物が返ってくる。……

女の子に優しくしたら、彼女できるかな？

明日は陶芸の作品が完成し、明後日はソフトの試合がある。

テストという試練の先には膨大な余暇が待っている。

そんな風に毎日ちよつとずつ希望を見つける。それくらいなら天からの贈り物を待たなくてもできるから。せめて夢の中だけでも、と思つのはあくまで夢でいい。

現実になつて、面白いことはたくさん転がっているのだから。

11月の最後（後書き）

テストまであとちょうど一週間。
寝不足はよくない。

あのころの未来に僕は立っているのかな

サブタイトルでお気づきの方もいるとは思いますが、私はスガシカオが好きです。

「あのころの未来に僕は立っているのかなあ……」は夜空ノムコウの一節ですね。

S M A P バージョンより本人が歌っているほうがずっと好きです。

例の陶芸が完成しました！

壊れていなかったのが幸いですね。

ちよっとメインの色が強すぎて、他の色が出なかったのが残念ですが。

びっくりしたのはデッサン。なんと完成品の絵をかけたこと。「これも成績のうちに入るよ」と脅され、絵の才能なんてこれっぽちもない私は泣く泣く書きました。ようやくできたと思ったら「影をつけて立体感を出して」と注文をつけられ、「おれは本当にダメなんですよ……」と反論したら、笑って一蹴されました。

なんですか？ 国宝級の陶芸職人だってきつと絵はへたくそですよ。たぶん。

それから発表会。

説明することは

- 1、 どうしてこの形にしたのか
- 2、 失敗した点
- 3、 成功した点
- 4、 何の花を挿したいか（いちおう花器ですからね）

そして私の言葉

「えーと、花瓶なら穴が空いていけばいいだろうということ、とりあえず穴のある形にしようと思いました。それで砂時計を作ろうとしたんですけど……うんぬんかんぬん」

まあ半分くらいはウケ狙いでやったので（あんまりおもしろくはできなかつたですけど）、よくは覚えていません。

みんなレベルが高くてびっくりしました。粘土で作った作品とは思えませぬ。

私は美術に成績なんて期待していませんので、赤点を取らないよう授業態度を良く見せることに全力を注いでいます。

まあ、そんなもんですよね。
才能の壁は越えられそうにありません。

私は完成図をイメージすることがとても苦手。

そこにあるものがどう変化し、化けるのかさっぱり想像がつかないのです。

将来美人になりそうだな、くらいならわかりますけどね。方向音痴なのもその辺に原因があるのかもしれない。でも、今回わかったことがあります。

未来予想図なんて当てにならないということ。

いくら勉強したって運に見放されることもあれば、遊んでばかりいたって大成することもあるでしょう。

努力に結果はつきものじゃない。

偶然という産物が運命を変えることだってたくさんあるのだ。

大切なのは未来がどうこうではなくて、今がどうかということ。目の前にあるものの将来を考えるより、それが綺麗なのか、心を癒やすものであるのか、なんてことを考えているほうがずっと楽。

ただ、あのころ描いた未来、というのを現実にすることも忘れちゃいけない。

理想が一番なのだから。

あのころの未来に僕らは立っているのかな（後書き）

プロフェッショナルがしばらくお休みなのが残念。
早く寝て明日に備えよう。

人を褒める

学校に行くとは言っても、クラスの全員と話ができるわけでは当然ない。

もちろんできればそれに越したことはないのだけれど、どうしても仲の悪い人や、しゃべる機会のない異性なんかもいるわけで、これがなかなか難しい。

一年間を通してほとんど会話したことのない人だっているだろう。

私の友人はまだクラスメイトの名前を全員分覚えていないという。

「後ろの席は？」と私が聞いたら「さん……たぶん」とのこと。私も名前を覚えるのは苦手ですが、さすがにこれはわざとやっているとしたか……。

ちなみに彼とはクラスが違うのですが、あえて後ろの人を指名したのは彼女がちょっと可愛かったから　　というのは秘密。

私はあんまり口が上手なほうではない。

まあ会話が成り立たないわけではないし、友達とは自然に話している。

原因はだいたい分かっているのだ。私はあまり頭の回転が早いほうではない。だから面白い切り返しもできなければ、無茶ブリにこたえることもできない。

あと後になつて「ああ、こうすれば面白かったなあ」と後悔するところがたくさんあります。それなら笑いをとることができただろうに。だったら小説を書けばいいじゃないか、文なら後からいくらでも手直しができる。と思ったのが小説を書き始めた一つの理由ではあるのですけど。

そう考えると悪いことばかりでもないのですが、どうにもこれがコンプレックスで仕方ない。

話上手な人の周りには自然と人が集まってくるし、そうすれば楽し

いことでしょう。

私だってそういう人は好きです。

正直、トラウマなくらいに口べたが嫌いです。

これが原因でかなりつらい思いをしたことがあります。

いやなもんです、自分を嫌いになるのって。

で、最近はグーグルを使うと何でもわかるといっじゃないですか。

残念ながらウィキペディアには載っていませんでしたが、話がうまくなるコツを検索してみたところ、いろんなサイトが出てきました。

その中で共通しているのが、「話上手は聞き上手であること」

相手の心情をうまく察して話を引き出してあげることが、つまりは会話を発展させることにつながるそうです。

なら私にびつたりじゃないですか。

話すより聞くほうが得意なんですから。

でも、「うん」とか「ああ」「じゃつまらないでしょう。」

ロボットに向かって話しかけているみたいで。

そこんとこ、凄く難しいです。

あともうひとつ。

こないだも書きましたが人は褒めると喜びます。

印象が良くなれば、話も弾みます。

これも悪いことじゃない。

「きれいなものきれいと言える私でいたい」

これは私の好きな言葉。

無理をする必要はない。きっと誰にでもいいところはあるから、そ

こを見つければいい。

全員がどうしようもない悪人だったら、私は天使になってしまっか

人を褒める（後書き）

ちなみにソフトは、4 - 1くらいで勝ちました。
あんま面白くなかったけど。

自習

テストか近づいてくると、自習の時間も多くなる。試験の前日に範囲を終わらせて「はい、明日から頑張ってね」という鬼畜な教師はほとんどいないだろう。(過去に一人いたが)

家で勉強するときよりも効率は良い。わからないところがあれば優秀な友人たちに教えてもらうことができるし、ひよっとすると教える立場になるかもしれない。他人に教えるためには意外と理解が深くなければいけないから、自分の学習にもなる。

……集中できればいいのだけれど、ついつい遊んでしまうことがある。

もともとが勉強嫌いだから精神力が弱いとさぼってしまう。後で泣きを見るのは自分だとわかっていても、どうしても目の前のニンジンに飛びついてしまうのだ。私は馬か？ 馬鹿だけれど。

学習しては忘れる。人生も勉強もその繰り返しだ。

さあどうする？ という問題が浮かび上がってくる。

隣のEちゃんはこういうわけか12時に就寝したらしい。彼女はいつも10に寝るから、とんでもない夜更かしだ。そのかわり自習の時間はずっと寝ていたけれど。

ほかの女の子は2時寝が続いているという。どうして生きていられるのか、私には不思議でならない。私もEちゃんと同じように10時には寝る人だから(その割に身長が伸びないのだけど)、11時までプロフェッショナルを見ていると翌日はつらい。

一度だけ徹夜をしたことがあるが、その時は冗談抜きで死ぬかと思っただ。気がつくと瞼が落ちて深い眠りに誘おうとする。雪山はあんな感じなのだろう。

そついや私は見た目よりも背が低く見えるらしい。

「最近身長伸びないんだよね」

「え？　いくつ？」

「1XX（恥ずかしいんで伏せさせてもらいます）だけど」

「へえーそんなにあつたんだ」

という会話をした。

どうでもいいことだけど。

どうしてだろうか。

授業を受けている時よりも自習をしている時間のほうが、ずっと勉強しているように感じる。というより、授業中は勉強しているという自覚がない。もはや生活の一部に溶け込んでいるから、息を吸うのと同じように、特に意識せず緩慢と過ごしている。

それとは違って、普段は問題集を開こうとも思わないから、自習で勉強していると錯覚するのだ。

いいのか悪いのかわからないんだけど、少なくとも自己満足では終わっていないはずだ。

答案が返ってくるたびにこれからは毎日勉強しようと思意するんだけど、成功したためしがない。

毎日ちよつとだけでもいいから、自習の時間を設けたら、もうちよつと成績が上がると思う。それは自宅でやれ、って言われればそれまでなのだけれど。

少しは頭の格差も埋まるんではなかるうか？

私は毎日勉強するのなんてお断りだけど。

自習（後書き）

やだな……テスト。

早く終わってほしい。まだ始まってもないけど。

小話と疑問

私はプロットや下書きを作るのが下手だ。

長編を書く時なんかはどうしてもプロットを作ってから、という流れになるのだけど、どうしてもうまくいかない。

もちろん後々の流れを把握していたほうが伏線だって張りやすいし、行動に矛盾が出ることもないだろう。だけど私はイメージーション能力が貧しいから、どうにも現実味のある想像ができない。抽象的な、もやもやとした映像しか浮かんでこないのだ。

未来は難しい。

説明文なんて、頭の中で組み立ててから書き始めないとぐちゃぐちゃになってしまうのに、私は無謀にも何の準備もなしに書いた。

期末テストの代わりとなる、期末レポート。無論重要だ。手を抜くわけにはいかない。

意外とすいすい文面が浮かぶ。

周りのみんなも同じくらいのスピードで書いているから、特別すごいことはないのだろうけど。この日記をつけ始めて2週間が過ぎた、その自信がちょっとだけ頭をよぎった。

毎日エッセイの練習はしているようなものだし。あれと同じように書けばいいか、という気楽な心持で挑んだのだ。大したものを書けなかったけど。

案ずるより産むがやすし、という言葉もある。私は意外とデキル人間なのかもしれない(また調子に乗って……)

それからもうひとつ。

どうやら例のEちゃんは「ピンクの女優」の意味を知らなかったというのだ。

私が今日、彼女の発言で印象を変えたと言ったら

「え？ ピンクの女優って映画の女優さんじゃないの？」と真顔で

聞かれた。私は驚いた。

ピンク、というのは昔のそういう作品にピンク色がたくさん登場しているからだ、という話をどこかで知った気がする。

「じゃあ、いったい何のことなの？」

「あー、AVとかに出てる人かな」と私が説明すると、「ええぶい？」と首をかしげるのです。

「AV機器とかの？」

これはいくらなんでも演技だろうと思ったのですが、本人はいたって真面目な様子。

高校生にもなつて知らなくては困る（？）だろうということとで親切に教えてあげると、ようやく自分の言った意味がわかったのか顔を赤くしました。

「私は純情なの！」と抗議されましたが、そんなことは微塵もないのは私が一番よく知っています。

どうにもどこかのテレビで「男の子はみんなピンクの女優が好き」と言っていたのを鵜呑みにしていたらしい。

いやはや、知識がないと変なところで恥をかくもんですね。

変な知識ばかり溜め込むのもどうかと思いますが。

正直、女子はよくわかりません。

どこまで男子と違うのか、そして同じなのか。

誰か教えてくれる人、いませんかねえ……。

小話と疑問（後書き）

あのと、しばらく同じネタでからかってました。
もちろんほどほどに、ですけどね。

サッカー

私はサッカーが好きである。

プレイするのも、観戦するのもすごく面白いと思う。ただ私はドリブルもできずキープ力もないから、とにかくパスコースを読んでインターセプトするという戦術に徹している。

とまあ、偉そうなことを書いても私はサッカー部でも何でもなくて、ただの下手の横好きなのですが。

ロングパスができないことが悩み。

どうやったらボールが浮くのだろうか。

Jリーグでは鹿島が史上初の3連覇を決めた。別にファンでも何でもないけれど、素直に「おめでとう」と言いたい。運やまぐれだけでたどり着ける頂きではないから、当然称賛に値する活躍だ。

ちなみに私のお気に入りは内田選手。

どこの世界でもイケメンと可愛い子はいいもんだ。

個人的な話になるが、私はガンバ大阪の遠藤保仁選手が大好きだ。もう愛しているといつてもいいかもしれない（ゲイではないので、その辺は比喩と考えてほしい）。

パソコンの待ち受けもしばらく彼の写真にしていた。いまはスガシカオにその座を譲っているが、凄く気に入っていた。

わかる人にはわかると思うが、彼のプレイスタイルは私の目標とする形になっている。フィジカルや運動量は見劣りするものの、ずば抜けたセンスと技術で他を圧倒する日代表の心臓だ。

視野の広さ、冷静さというのは見ていて格好いい。

なにも雷のようなドリブルばかりがサッカーではないから。美しいパスやゴール前での華麗なアシストも魅力的だと思う。私もそんな選手を目指している。

ワールドカップの組み合わせが決まった。
オランダとカメルーンとデンマーク。正直言って、北朝鮮よりはマシだった。青の国はかわいそう過ぎる。

難しいが、勝てない相手ではないはずだ。遠藤選手や中村俊輔などの中心選手の怪我さえなければ対等に渡り合うことは十分に可能だと私は思っている。

問題は、試合が深夜に行われること。気合と根性で起きているしかない。

御託を並べているよりも、背中で語る男のほうが断然カッコいい。
たとえば松井秀喜だったり、中田英寿だったり顔かたちがそれほど整っているわけではない。けれど、大衆をひきつけるようなカリスマ性をもったカッコよさを兼ね備えている。

内面から出ているオーラ（自身だったり、実績だったりするのだろう）に圧倒されて、うっとりするのだ。

私はインターハイに出られるような運動神経も、努力をする才能も持っていない。

けど、広がっている道は何もスポーツだけではないから。
ビルゲイツにだって、柳井社長にだって、村上春樹にだってなれる可能性はわずかながらにある。

見つけられるかどうかは別問題だけど、誰にでもプロフェッショナルになれる余地は残されている。将来の夢は二トなんて現実的な意見は言いたくない。

若いんだから、でっかい野望を持たないと。

日本の未来は明るいはず。何せ私がいるのだから。

サッカー（後書き）

そのくせ期末では平均点を狙う私。

蹴りたい背中

勉強の合間に、久しぶりに読書をした。

前々から読みたいと思っていた綿谷りささんの「蹴りたい背中」を読んだ。最年少の芥川賞受賞作だったけど、堅苦しいような印象はまったく感じなかった。

私も私なりに高校生とか、若さとかを文学に仕立て上げようとしているけど、それを見事にやってのけた作品だったと思う。間違いない私の心に深く記憶を刻んだ一冊になる。ちょっと短いのが残念だったけど、その分何回でも読みなおせる。

私も作家のはしくれなら、誰かの心を動かす作品を書きたいもの。ただ、最近はスランプで……本当に書きたいものが書けていない。

この日記もリハビリテーションの一環として始めたものだから、自分でもよく続いていると思う。

それはひとえに読者さんのおかげですから、私はすごく感謝しています。

小説の腕前は、読書量×執筆量 で決まるといわれている。

私はそれにプラス としてセンスを加えさせてもらいたい。遺伝子レベルでの得手不得手がある、というのが私の持論だから。

だとすれば、私があレベルまで達するには寿命を10回ほど繰り返し返さなければいけないことだろう。追いつけるとは思っていないから気が楽だけど、頑張っても頑張っても到底越えられそうにない壁を見たら、人はどう思うものなのだろうか。

白アリのようにコツコツと壁を崩していくか、その壁が張りぼてだったことに気がつくか、気合いでぶち破るか、ヘリコプターを使うか、向こう側から誰かがやってくるのを待つか、回り道をするのか、それとも地下から攻めるか、自分の背を伸ばすか……とまあ、私の

貧弱な想像力ではこのくらいしか思い浮かばない。

私自身がとるだろう道といえば、おそらくがむしゃらな努力などできそつにもないから、隕石でも落ちてこないかと思いつながら散歩するのが精いっぱいだろう。

そういえば最近の若者は上昇思考が少ないといわれる。それは単に我々の世代の能力が落ちてきているだけなのか、それとも競争なんてしたくないという平和な民族に進化しようとしているのだろうか。もしそうだったら嬉しいことだ。

広いサバンナで、ライオンのいない楽園が出来上がる。

きっとどこかで火事が起こるか、宇宙人がやってくるかして崩れてしまっただろうけど。

アダムとイブがリンゴを食べてから、この世界に平穏はない。

争いなんて嫌いだ。

私には宗教というものが到底理解できそうにもないから、それで対立している人たちをみるとひどく滑稽に見える。

お金にしる、神様にしる、人間の作りだしたもので殺しあっているのだから、全員が自殺願望を持っているとしか考えられない。

知恵を得た代わりに、どこか大切なねじを落としてしまったのだろうか。リンゴを食べた時に前歯が抜け落ちたのかもしれない。永遠に帰ることのできない楽園に置いてきた落し物は、元には戻らないから。

つまり何が言いたいかというと、私は私だから、のんびりやっつていこうということなのである。

蹴りたい背中（後書き）

とはいっても、私の背中を蹴っ飛ばして前に進みたいのも事実なのですけどね。

案ずるより産むがやすし（ただし油断大敵）

ようやくテストが始まった。

いつもならのんびりと過ごしているはずの時期だが、学級閉鎖で大幅に開始が遅れた。苦勞が先のばしにされたと考えるのか、それともいやな時間が長く続くと考えるのか。それは私次第だから、仕方無くポジティブなほうを選びたいと思う。

中間の点数があまり良くなかったので、期末で取り戻そうとちょっとばかり頑張ってみようと思っていたのだが、勉強量はそれほど変わらなかった。むしろ減っているかもしれない。

私はとにかく穴を少なくすることを目標にしているから、平均点を割らないことを第一の目的とする。それができれば成績はおのずとついてくる。

とびぬけた何かはないけど、とびぬけて悪いものもない。オールラウンドプレイヤーだ。

勉強したからと言って必ずしもそれが点数に結びつくわけではない。いくら懸命に暗記しても頭が真っ白になってしまえばそれまでだし、徹夜して問題文を読み違えることもあるだろう。だが、不必要な心配はいらないはず。

俗にノー勉という言葉がある。

NO勉強、という意味だが、STOP勉強ではない。使い方は

「やばいやばい、あたし今日ノーベンなんだけど」

「えーまじい？ それやばくない？ と言いつつあたしもなんだけどお（笑）みたいな？」

といった感じですよ。（ちよっとうざいギャル風にお送りしました）

そういえば今日は「やばい」という単語を何回耳にしただろうか。テストが終わると同時に半数くらいのクラスメイトがそう叫んできたような気がする。無論私もその一員で、さっそく問題の正否を確認しあつた。

一番まずかつたのは楽勝だろうとたかをくくって挑んだ情報のテスト。8桁くらいの計算を電卓なしでやれと言われ、かなり計算ミスを勃発しました。なんだよ、これは算数かよ。

パソコンを使つていても、この箱が2進数を理解しているとか知つたこつちやないし。文字コードがどうかフルカラーが何ビットとか、私興味ありませんから。と言つてしまえばそれまでなのだけど、でもそんな無責任なことは嫌いだから、ちよつとくらい理解してやるうじやないかというエラそうな姿勢で勉強に対するのも面白いと思う。

人間さまのほうが上なんだよ、ということ。

勉強ばかりやっていてもつまらないから、私はゲームをするし読書もするし小説も書く。

勉強の楽しさなんて未熟な私には到底理解できそうにもないから、若いうちに楽しいことをやっておこうと思つている。

小説を書け、というテストがあつたら私は逃げ出すだろうけど。

案ずるより産むがやすし（ただし油断大敵）（後書き）

テスト前は10時に寝る。

それ以外は30分遅れで寝る。

涙を流す

私は素直に感情を表現できる人がうらやましい。

面白くもないのに笑ったり、悲しがつて見せるのは嫌いだけど、うれしい時は喜んで感動した時は涙を流せる。そんな人がうらやましいのだ。

具体的に言うと、私は涙が流せない。

かなり意識的に泣こうと思って、それでいて感動するような話を聞いてようやく一粒のしずくが頬を伝うくらい。目がウルツとなることはあるけど、涙があふれてくるほどではない。欠伸をしたときのほうがよほど量が多い。

生きていれば、泣きたくなるようなことだつてたくさんある。

むやみに泣いてばかりいるのもいいとは思わないけど、せめて自分が泣きたいと思ったときくらいは、気がいくまで泣かせてくれればいいのに。どんなに悲しくても、自分の心の中に抑え込んで、蓋をして、それでときどきそつと覗きこんではため息をつくなんて。

涙の粒と一緒に思いが流れていくはずはないけど、自分がどう感じていたのかくらいはわかるはず。

どうしてこんな風になってしまったのだろうか。

泣けない、ということがこんなにもつらいだなんて思ってもみなかった。

……なんて書いているけど、別につらいことを経験したわけでない。テストは確かにきついけど、私の今は希望に満ちているはずだ。

過去には泣きたくて、それでも泣けなくて自分に嫌気がさしたこともあった。

自分は本当に悲しいのだろうか、偽善者なのではないだろうか？

と悩んだこともある。

まあ、それは昔の話で。

感動する話、というのを検索すればいくらでも湧いて出てくる。世界にはこんなにも良作が転がっているものかとも思ったけど、そんなことはないみたいだ。半分くらいはフィクションか、それとも作者の技量がなさ過ぎるかで、色あせてしまっている。つまらないもんだ。

感動、というものにはどこかしら悲しみが含まれている。

たとえば病気の彼女が「ありがとう」と言っただけで死んでしまうとか、そういうことが多い。

そんな私に比べて女の子はよく泣く。

私が泣かしているわけでは決してないが、目を真っ赤にしているシーンなどは学校でもたまに見かける。声をかけるわけにもいかず、「どうしたんだろうな」と思いながら横を静かに通り過ぎることすらできないのだが、目の前でそれをされたりすると非常に困る。

その女の子は私のクラブメイトのことが好きで、なんちゃって恋愛相談みたいなものを私がしていた。とはいっても経験値0な私だから効果的なアドバイスなんてできるはずもなく、ただ頷いて、「頑張つて」とくらいしか言葉をかけてあげられなかったのだ。

想われているほうはというと、全然脈なしで。つらい気持ちはよくわかるんだけど、ついに彼女は泣いてしまった。しかもHR中に。

担任にばれなかったのは幸いだったが、私はどうしたらいいのかわからなかった。

他人の力になるといっても、難しいものだ。

誰かを守るなんて、できそうにもない。やっってはみたいけど。

こんな、ちょっと前の話。
テスト中は話題が少なくて困る。

涙を流す（後書き）

やっと半分終了。

気が向いたら、文章評価もお願いします

同じ、という安心感

群れを作る、というのは猿の頃からの本能らしい。

それは自分の身を守るためであるから、どうやら集団でいると安心する。そんな環境に適応できず、独りでいる人はひよっとしたら進化した人類の姿なのかもしれない。

さみしがり屋でいつもみんなといたくちやいやだという子もいれば、いやおれは孤高にいくぜ、なんてやつもいて、私はそれでいいと思う。

みんなで固まって守ってばかりいたのでは、サルのことと変わらないから。

でもまあ、正しい答えというのは少なくともテストにおいては一つしかないわけで。

誰かと同じ答えだったとしたらぐっと正答率は高くなることだろう。たとえばそれがひっかけ問題だったり、回答欄を間違えてさえいなければ。

今日の試験は本当に難しかった。

中でも地理。こいつがずば抜けている。

たくさん数字の書き込まれたグラフが一つ、ドカンと置いてあって気候区分をしるとのこと。

そして判別した気候の特徴と、その位置する場所を答えさせるという問題。

50分のうち、30分をこれに費やした。それでも時間が足りないくらいだった。

一番怖いのは、最初の区分を間違えると後の関連問題まですべてバツがつくということ。一つ間違えるとほかのやつもずれ込むから、負の連鎖は止まらない。

そして大きな記述問題が3つ。

これを5分ずつで片付け、おしまい。

ハンパじゃない疲労感と焦燥感が胸を貫いた。

答案返却の日が怖すぎるけど、もうどうしようもない。

大問1つに記述が3つだけの試験なんて受けたことがなかったから、とにかく時間の配分が難しかった。経験不足はやはり思考をあわただしくさせる。

思春期は誰もが「俺は特別で、あたしは一番かわいいの」って思ってる。思春期のやつがそう言ってるんだから間違いない。女の子のほうはどうだかわかんないけど。

オリジナリティーとか、アイデンティティーとかに執着して、目いっぱいおしゃれを試みたり、キャラとかいうよくわからないものにくるまれてみたり、いろいろしている。

地理のテスト。

みんなで答え合わせをした。

私の出来は良いほうだったと思っっているけれど、どのように転ぶかわからない。私たちの誰も、真相を知りえてはいないのだから。けど嬉しかった。

鏡を見て、ため息ついて。

鏡を見て、鼻をふくらませる。

あと一日でおしまい。

それからあとは先生たちが苦勞する立場だ。

あれだけ難しい問題なのに、採点は簡単なんだよな。頭のいい人だ。

同じ、という安心感（後書き）

青空ペダルをピアノで弾こうと思ったけど、意外と難しかった。

突然ですが……

このぐだぐだ日記も25回を迎えました。^{エッセイ}
ですが、そろそろこころへんで筆をおきたいと思っています。

私としても、こんなに続くとは思っていませんでしたし、少なくない数の読者さんがいたことも大変うれしく感じています。ですが、そろそろ冬休みに入ることですし、学校へ行く機会も減ることになります。

師走、と言いますし、私自身もちょっといろいろ頑張ってみようという事で忙しくなってきたのも理由の一つです。止まっていた小説の続きを書く、ということもやってみたいと思っています。

私が小説を書いていて、よく考えることがあります。
というより気がつくことですね。

「あ、私ってこんなこと考えてたんだって」
新しい自分を発見できるんですね。こいつはこんな馬鹿で、かつこつけて、それでもちよつとセンスあるな、なんて思っ。あれ

青春してるな（笑）

物語を作るっていうのは、すごく楽しいことです。

もちろん悩んだり、辛かったりすることもあるけど、自分だけの世界を描いて発表して、それで笑顔が見れたら最高じゃないですか。それだけは忘れないでいたいですね。

というわけで……これまでお付き合いいただき、ありがとついでい
ました。

今年も残りわずかとなりましたが、よい日々をお過ごしください。

突然ですが……（後書き）

本当に、ありがとうございました。
良い一年とクリスマスが訪れることを願っております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6643i/>

高校生の憂鬱

2010年10月8日12時09分発行